

中小企業 診断士による 経営 Q&A

Q 冷凍食品を無人店舗、自動販売機で販売する計画があります。商品管理上の注意点を教えてください。

A 商品管理上、最も注意すべきポイントは「商品ロス」です。商品ロスは、万引に代わられる来店者の窃盗による「外部ロス」、従業員など関係者の窃盗による「内部ロス」、関係者やシステム操作のミスによる「管理ロス」の三つに区分されます。なお、広義として、賞味期限切れによる「廃棄ロス」「値下げロ

ス」、販売機会喪失による「機会ロス」を含めることもあり

ます。近年の、万引犯は未成年者が減少している一方で、高齢者、生活困窮者、社会的

無人店舗では、声かけによる万引抑止が行えず、外部ロスのリスクが高いため、防犯力

盗を絶対に許さない「企業であることを店内掲示や従業員教育で徹底することが最も大事なのは変わりませぬ。欧米では商品ロスの対策を全社的に事前に行つ「ロスプリベンション」という取り組みが普及しています。

単価100円の商品について考えてみます。原価率が70%、営業利益率が1%の店舗の場合、その商品1個のロスは原価70円の損失となりま

孤立者などが目立っています。有人店舗では、万引を断念させるためには「従業員の声かけ」が最も効果があると

録画を確認して対策を練ることになります。人物を特定するために外部の画像解析サービスを利用する方法もあります。また、セルフレジなど無

日本でも「ロス対策士」という専門資格が一昨年創設され、資格を取得して商品ロス対策に携わる人も増えています。中小企業診断協会には、経営から現場改善までさまざま

ポイント「商品ロス」対策

なので70個もの販売数量を増やす必要があります。このように商品ロスは事業収益にイ

握のために有効です。しかし、万引には常習性があり、処分も軽いため、要注意人物が地域で生活している可能性があ

品を隠して支払わない場合が生じますので、防犯カメラによる監視をお勧めします。

また、自動販売機のクラウドを経由した遠隔在庫管理機能は、在庫状況やトラブル発生を常時監視できるため、管理ロスを抑止する効果があります。

大口スは年1〜2回の棚卸しの際に判明することが多く、

無人店舗や自動販売機への品出し・代金回収の際、在庫

生を常時監視できるため、管理ロスを抑止する効果があります。

連絡先・一般社団法人埼玉

原因の究明も対策も後追いになりがちです。

商品ロスの内、万引による品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、

品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、

販売方法にかかわらず、「窃

品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、

品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、

品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、

品ロスを速やかに認識し、対策に着手できます。例えば、